Bien sûr que je t'aime 型の構文をめぐる一考察

川　島　浩一郎

0．はじめに

(1) から (5) に見られるように，que に導かれる節が副詞要素と結び付いて，独立文を構成することがある．たとえば (1) においては，que je t'aime が副詞である bien sûr と結合して，bien sûr que je t'aime という独立文をつくっている．このタイプの独立文を，Bien sûr que je t'aime 型構文と呼ぶことにしよう．

(1) Bien sûr que je t'aime ! (N. de Buron, *Chéri, tu m'écoutes?... alors répète ce que je viens de dire...*, Collection Pocket, 1998, p.236)
(2) Peut-être que j'peux rentrer avec Garrette ? (G. Musso, *Et après...*, Collection Pocket, 2004, p.229)
(3) Heureusement que Dubois est intervenu énergiquement ! (B. Aubert, *Funérarium,* Collection Points, 2002, p.224)
(4) Évidemment que je sais ! (M. Levy, *Mes amis Mes amours*, Collection Pocket, 2006, p.150)
(5) Mon Dieu qu'il est laid, il est encore plus laid qu'avant. (A. Gavalda, *Je voudrais que quelqu'un m'attende quelque part*, Collection J'ai lu, 1999, p.42)

本稿では，Bien sûr que je t'aime 型構文の成立にともなって , どのような統辞現象が生じているのかを , 主に分布（distribution）や統辞機能（fonction syntaxique）という観点から分析する．

分布は，音素，記号素，連辞，連辞素など，言語単位が現れうる文脈の集合である．記号素や連辞のような表意単位の場合，分布は，表意単位と発話の他の部分の間に成立しうる統辞関係の総体である．

表意単位が示す分布は，統辞単位の抽出・認定と密接に結びついている．

(6) Il voulait entendre une voix *amie*. (J.-Ch. Grangé, *La ligne noire*, Collection Le Livre de Poche, 2004, p.394)
(7) Il entendait une voix *rauque* s'élever dans le bureau, [...]. (J.-Ch. Grangé, *L'Empire des Loups,* Collection Le Livre de Poche, 2003, p.81)

(8)　C'est quelqu'un de *bien,* [...]. (S. Japrisot, *La dame dans l'auto avec des lunettes et un fusil,* Collection Folio, 1966, p.216)

(9)　Je suis vraiment quelqu'un de *bizarre*. (M. Levy, *Où es-tu?*, Collection Pocket, 2001, p.138)

たとえば(6)の amie は, 形容詞的な機能を持つと言われる．このように考えることができるのは, (6)における amie の文脈への現れ方が, (7)の rauque のような形容詞の分布に類似するからに他ならない．(8)の bien の働きが形容詞的だとされるのは，現れる文脈が(9)の bizarre とほぼ同一だからである．一般に，発話の他の部分に対する統辞関係が同等である二つの表意単位は，互いに同等の役割を担うと考えてよい.

論述の手順は次の通りである．**1.** でまず，本稿で用いる統辞概念について概観する．**1.1.** で統辞的な意味での「従属」を定義し, **1.2.** で「統辞機能」に定義を与える．**1.3.** では「内心構造」および「外心構造」を定義する．**2.** では，Bien sûr que je t'aime 型構文の統辞的な成立基盤が，外心構造と密接に結びついていることを確認する．**3.** では，Bien sûr que je t'aime 型構文における文頭の副詞要素のステイタスが，提示詞のステイタスに接近することを検証する．**4.** では，Bien sûr que je t'aime 型構文における que 節が, 独立文に匹敵する統辞ステイタスを持つことを記述する．**5.** では, 独立文が文副詞の解釈に接近する場合に一瞥を加える.

1．用語の定義

1.1.「従属」の定義

表意単位は発話において，必ずしも互いに同等のステイタスを持っているわけではない .

(10)　*Une enveloppe bleu pâle* tomba sur le parquet. (G. Musso, *Seras-tu là?*, Collection Pocket, 2006, p.183)

(10) の une enveloppe bleu pâle はある色合いの封筒（enveloppe）を，bleu pâle は薄い青色（bleu）を意味する．une enveloppe bleu pâle において最も中心的な記号素は enveloppe である．enveloppe に比べると，une や bleu pâle は周辺的である．また bleu pâle においては bleu が中心的であるのに対して，pâle は付随的である．言語にはこのような中心性と周辺性の区別，つまり階層性が絶対に必要である．さもなければ, 言語の大部分が表意単位の単なる羅列でしかありえず, たとえば une enveloppe bleu pâle の四つの記号素の意味関係は「単一性 + 封筒 + 青さ + 薄さ」のような概念の平板な並置から想像や連想によって組み立てるしかないことになる．このような，階層性に欠けた伝達手段に限界があることは明らかである.

一方が中心的で他方が付随的な統辞関係を従属（subordination）あるいは限定（détermination）と呼ぶ．より明確に定義すれば，次の三つの条件が満たされるとき，X は Y に従属する（X は Y を限定する）と言われる[1)].

a）X の出現が Y の存在に依存する．
b）X を付け加えることが，Y の統辞的ステイタスに本質的な影響を与えない．
c）発話の他の部分（le reste de l'énoncé）に対して X が持つ統辞関係が，Y のそれとは異なる．

たとえば次の（11）において，que c'est une bonne chose は pense に従属している．

（11）　Je *pense que c'est une bonne chose.*（A. Gavalda, *Je l'aimais,* Collection J'ai lu, 2002, p.90）

（11）における que c'est une bonne chose の出現は，pense の存在に依存する．（11）から pense を消去すれば，que c'est une bonne chose も（11）から姿を消す．また que c'est une bonne chose の有無は，（11）における pense の統辞ステイタスに本質的な影響を与えない．そして que c'est une bonne chose と発話の他の部分との統辞関係が，pense と発話の他の部分との統辞関係と異なることは自明である．

（12）　De toute façon, je ne peux rien *pour toi.*（*L'Empire des Loups,* p.373）
（13）　J'ai voulu parler *avant qu'il parle.*（*La dame dans l'auto avec des lunettes et un fusil,* p.215）

（12）において pour と toi の間にある統辞関係を，従属とは呼ばない．確かに pour の出現はある程度 toi の存在に依存しているし，逆に toi の出現にも pour に依存している部分がある．しかしこれは単なる依存関係ではなく，pour を付け加えることは toi と発話の他の部分との統辞関係に本質的な影響を与える．従属という概念は階層性を明確化するためのものである．一方が他方のステイタスに影響するような関係を従属に含めるべきではない．
（12）の pour toi の場合と同様に，（13）における avant と qu'il parle の間にある統辞関係も，従属とみなすことはできない．avant の存在は，qu'il parle と j'ai voulu parler の間の統辞関係に本質的な影響を与えている．また que と il parle の間の統辞関係も同じように，従属ではない．

（14）　*Jonathan* et *Clara* lui faisaient face, [...].（M. Levy, *La prochaine fois,* Collection Pocket, 2004, p.176）

（14）において Jonathan と Clara の間にある関係も従属ではない．これらは lui faisaient face に対して同じ統辞関係にある．このように発話の他の部分に対して同一の統辞関係を持つものは，従属ではなく等位関係（coordination）にあると言われる[2)]．等位関係にある諸要素は互いに同じ階層にあるのだから，従属と呼ぶべきではない．

1.2.「統辞機能」の定義

統辞機能という概念に定義を与える．統辞機能は従属関係を前提にする．つまり統辞機能は表意単位（記号素，連辞，連辞素など）が，発話の他の部分に従属する場合にのみ生じる．従属することが，統辞機能を持つことの定義であると言い換えてもよい．

逆に従属関係が不在のときは，そこに積極的な意味での統辞機能は認められない．したがって表意単位が現れる文脈には，それが統辞機能を持つ場合（従属するとき）と持たない場合（従属しないとき）の区別があることになる（**1.3.** を参照）．

（15）　Il faut *le montrer*.（*Chéri, tu m'écoutes?... alors répète ce que je viens de dire...,* p.133）
（16）　Il faut *que je dorme* !（Ph. Djian, *Zone érogène*, Collection J'ai lu, 1984, p.49）

（15）において，montrer の統辞機能は faut に従属することによって生じる．つまり montrer は faut に従属するという統辞機能（faut の直接目的）を持つ．一方 faut はこの文の他の部分に従属せず，述辞として「そこにある」だけで，それ自身に明確な（積極的な）統辞機能は担っていない．同様に，（15）の le は montrer に従属することで，特定の統辞機能（montrer の直接目的）を担う．また le montrer の内部において montrer には明確な統辞機能がなく，不定詞句の中心として「そこにある」だけである．montrer の統辞機能は，既に述べたように，この連辞の外部に対して働く．つまり montrer の統辞機能は，le montrer という連辞全体の中心部分として faut に従属することによって生じる．（16）の que je dorme おいても事態は同様である．この que je dorme の統辞機能（faut の直接目的）は faut に従属することによって生じる．

（17）　[...], c'est démodé *depuis 1930* !（*Chéri, tu m'écoutes?... alors répète ce que je viens de dire...,* p.210）
（18）　Il buvait à l'époque, mais il n'a plus touché une goutte d'alcool *depuis*.（*Funérarium,* p.389）

（17）において，depuis も 1930 も，それぞれ単独では明確な統辞機能を持たない．統辞機能を担うのは，depuis 1960 という連辞全体が発話の他の部分（直接的には démodé）に従属する場合である．1930 がこの文に組み入れられるという統辞現象において，depuis という前置詞が何らかの役割を担っていることは確かである．しかしこの働きは，（17）の depuis 1960 や，（18）における単独の depuis が担っているような，明確な統辞機能とは別物である．

（19）　*Vilandier* observait *Guilon*.（T. Jonquet, *Du passé faisons table rase*, Collection Folio, 2006, p.264）

（20）　Toute tremblante, elle se leva *avec difficulté* [...].（G. Musso, *Sauve-moi,* Collection Pocket, 2005, p.193）

（21）　Il tendit la main *pour que je vienne plus près*.（S. Japrisot, *La passion des femmes,* Collection Folio, 1986, p.348）

（19）の Guilon が持つ統辞機能（observait の直接目的）は，主辞である Vilandier との相対的な位置関係によって表示される．（20）の avec と difficulté の統辞関係は，（19）における Guilon とその「位置」の間にある統辞関係に近い．（19）の Guilon がそれに相応しい位置で observait に従属することによって特定の統辞機能を担うのと同様に，（20）の difficulté は avec を伴って leva に従属することで所定の統辞機能を獲得している．表意単位と結びつかない限り「位置」に明確な統辞機能がないのと同様に，（20）の avec に積極的な統辞機能はない．（19）において Guilon とその「位置」がいわば一体化しているのと同じく，（20）の difficulté は発話の他の部分に従属するために avec と一体化していると考えなければならない．（21）の pour que je vienne plus près についても，同じ分析が成立する．（21）において pour も que je vienne plus près も，積極的な統辞機能を担ってはいない．統辞機能を持つため（発話の他の部分に従属するため）に，これらは一体化していると考えるべきである．

（22）　*Enfants* et *parents* coururent vers la rivière pour les voir de plus près.（R. Dahl, *Charlie et la chocolaterie,* Collection Folio Junior, 1964, p.92）

（22）において coururent の主辞機能を受け持つのは，enfants et parents という連辞全体である．enfants と parents はどちらも，この連辞内部において等位で結ばれている消極的な存在に過ぎず，個別の統辞機能を担わない．実際，無冠詞名詞である enfants と parents はそれぞれ単独では主辞として不完全である．（22）の enfants と parents は発話の他の部分に対して同じ統辞関係にあるというだけで，これらの間に明確な統辞機能は成立しない．

等位関係にある諸要素は，発話の他の部分に対して同一の統辞関係を持つ（**1.1.** を参照）．つまり等位の定義にとって本質的なのは関係の同一性であって，それが文中でどのような働きをしているかという機能の問題からは独立している．この事実は等位が統辞的な関係ではあっても，統辞機能と呼ぶべきものではないということを明瞭に示している．

（23）　Il *fait* une chaleur étouffante.（*Seras-tu là?*, p.283）

一般に，述辞（prédicat）は明確な統辞機能を持たない．述辞は発話の他の部分に従属せず，従属関係がつくる階層構造の頂点に位置するからである．この事実は述辞の定義そのものである．またこのことが，述辞を中心にまとまっている文全体が，談話から統辞的に独立する基盤にもなって

いる．統辞機能の不在は，独立の可能性を含意する．統辞機能が従属を前提条件とするのだから，統辞機能の不在は逆に非従属性（つまり独立性）を意味することになる．たとえば（23）の述辞である fait は発話の他の部分に従属していないが，このことは fait を階層構造の頂点とする il fait une chaleur étouffante という連辞全体が，談話から統辞的に独立していることと同義なのである．

（24）　Je suis follement amoureuse de toi.（*Et après...*, p.207）
（25）　Je crois *que je suis amoureuse de toi,* [...].（*La prochaine fois,* p.182）

階層構造の頂点である述辞に明確な統辞機能が欠如しているという事実は，必然的に，その述辞を中心とする連辞全体にも明確な統辞機能がないことを意味する．たとえば独立文である（24）の Je suis follement amoureuse de toi は，談話の他の部分に従属していないのだから，いかなる統辞機能も持ちえない．一方，従属接続詞をともなった que je suis amoureuse de toi は，明確な統辞機能を担いうる連辞である．たとえば（25）では crois に従属することによって，特定の統辞機能（crois の直接目的）を担っている．

1.3.「内心構造」と「外心構造」の定義

連辞は内心構造（construction endocentrique）と外心構造（construction exocentrique）に分けることができる．これらは分布主義の枠組みで次のように定義されてきた．連辞 XY が X あるいは Y と同じ分布を示すとき，この連辞を内心構造と呼ぶ．そして XY が X と Y のどちらとも異なる分布を示すとき，この連辞を外心構造と呼ぶ[3]．

内心構造と外心構造が持つ機能の違いを明確にするために，定義を次のように修正する．内心構造とは，一まとまりで統辞機能を担いうるような連辞のことである．外心構造とは，そのような可能性を持たない連辞を意味する．たとえば，（25）の que je suis amoureuse de toi は，明確な統辞機能を担いうる連辞であるから，内心構造である．一方，（24）の je suis follement amoureuse de toi は，このままでは明確な統辞機能を担う可能性を持たないのだから，外心構造と考えてよい．

（26）　Optimistes, les poètes...（T. Benacquista, *Tout à l'ego,* Collection Folio, 1999, p.128）
（27）　Dans deux minutes, la grand-messe.（T. Benacquista, *Saga,* Collection Folio, 1997, p.120）

内心構造と外心構造の区別は，独立文の成立基盤と密接な関係にある[4]．たとえば（26）の optimists, les poètes は全体が外心構造である．外心構造には，内心構造と比べて，独立文としてのステイタスを獲得しやすい傾向がある．統辞機能は従属を前提にするが（**1.2.** を参照），この事実は，一つにまとまった統辞機能を持たない連辞には，相対的に高い独立性が生じる可能があることを意味するからである．（26）における optimists, les poètes という外心構造の統辞的独立性が相対的に高いことは，内心構造である les poètes optimistes と比較すれば明瞭である．

（27）において dans deux minutes も la grand-messe も，それぞれ単独では内心構造である．文としての独立性も低い．しかしこれらを並置した dans deux minutes, la grand-messe は全体で外心構造を構成していて，独立文としての安定度が高い．外心構造は従属関係がつくる階層構造において，その頂点（つまり述辞の位置）にしか来ることのできない連辞なのである（**1.2.** を参照）．

２．外心構造と Bien sûr que je t'aime 型構文

Bien sûr que je t'aime 型構文は，全体で外心構造を構成している．このことが Bien sûr que je t'aime 型構文が独立文として成立するための，統辞的な基盤となっている（**1.3.** を参照）．

（28）　Bien sûr que tu peux.（*Sauve-moi,* p.370）

（29）　Heureusement que la vie était belle.（Ph. Djian, *37°2 le matin,* Collection J'ai lu, 1985, p.237）

（30）　Peut-être que tu devrais prendre du repos…（F. Beigbeder, *99 francs*（*14,99 euros*）, Collection Folio, 2000, p.46）

（31）　Évidemment qu'il y a des tailles différentes !（*Chéri, tu m'écoutes?… alors répète ce que je viens de dire…,* p.59）

たとえば，bien sûr は記号素なので連辞ではないが，発話の他の部分に従属しうるという点では内心構造的な性格を持つ．また que je peux が内心構造であることも明らかである．内心構造的な bien sûr や que je peux は，それぞれ単独では独立性が低い．これに対して（28）の bien sûr que je peux という連辞は，全体が外心構造である．統辞機能は従属を前提とするのだから，積極的な統辞機能を担わない bien sûr que je peux には，相対的に高い非従属性（つまり独立性）を獲得する可能性がある（**1.3.** を参照）．実際 bien sûr que je peux は，一まとまりとして，述辞の位置にしか来ることのできない連辞である．同様に（29）や（30），（31）においても，全体が外心構造であることが，独立文としての統辞的な成立基盤だと言ってよい．

３．提示詞に接近する副詞要素

Bien sûr que je t'aime 型構文における文頭の副詞要素の働きは，voici, voilà, il y a, c'est などの提示詞（présentatif）のそれに近いと考えられる．

（32）　Anne m'a rendu la liberté, et *voici* que je lui en veux.（F. Beigbeder, *L'amour dure trois ans,* Collection Folio, 1997, p.61）

（33）　Elle si prudente, trop prudente, *voilà* qu'elle m'accordait tout, [...].（Boileau-Narcejac, *Les victimes,* Collection J'ai lu, 1964, p.55）

（34）　*Il y a* que vous allez peut-être en boire dix et que ce n'est pas possible aujourd'hui.（F. Vargas, *L'homme aux cercles bleus,* Collection J'ai lu, 1996, p.193）

（35）　Quand je vous dis qu'il n'est pas là, [...], *c'est* qu'il n'est pas là.（F. Vargas, *Sans feu ni lieu,* Collection J'ai lu, 1997, p.252）

（32）から（35）に見られるように，que に導かれる連辞が提示詞に先立たれることがある．提示詞には，非動詞要素の統辞ステイタスを述辞のそれに接近させる働きがある．たとえば que je lui en veux のような連辞は従属的な性格を持つのが通常だが（**1.3.** を参照），（32）の voici que je lui en veux は，従属関係が作る階層構造の頂点にしかこれない連辞である．これは，voici を付け加えることによって，que je lui en veux が述辞としてのステイタスを獲得することを意味する（**1.2.** を参照）．提示詞の存在は，内心構造を外心構造へ移行させると言い換えてもよい（**1.3.** を参照）．

（36）　Toi qui aimais tant voyager, *voilà* que tu deviens popote.（N. de Buron, *Qui c'est, ce garçon?,* Collection J'ai lu, 1985, p.60）

（37）　Mais *bien sûr* que j'ai raison !（*Je voudrais que quelqu'un m'attende quelque part,* p.127）

（38）　*Heureusement* que David vit dans un monde imaginaire.（F. Beigbeder, *Windows on the World,* Collection Folio, 2003, p.210）

（36）と（37）を比べると，（36）における voilà と que tu deviens popote の統辞関係が，（37）における bien sûr と que j'ai raison の統辞関係にほぼ等しいものであることが分かる．que j'ai raison は内心構造であるが，これに bien sûr を加えた bien sûr que j'ai raison は外心構造である．本来なら従属的な連辞である que j'ai raison の統辞ステイタスは，bien sûr の存在によって述辞のステイタスに接近している．また（38）における heureusement の存在は que David vit dans un monde imaginaire の統辞ステイタスを述辞に接近させ，この構文全体を外心構造化する役割を担っている．非動詞要素を述辞のステイタスに特化するという点において，（37）の bien sûr や（38）の heureusemen の働きは，voici や voilà のような提示詞の役割に匹敵すると考えてよい．

（39）　*Un peu* que ça me préoccupe !（*Sauve-moi,* p.337）

（40）　*Rien à foutre* que la jeune femme dorme encore.（A. H. Japp, *La saison barbare,* Collection J'ai lu, 2003, p.105）

（41）　*Pour une fois* qu'il avait de la chance !（*Et après...,* p.310）

（42）　Mais en même temps, la liberté... *Bon Dieu* que c'est bon.（Internet）

同様に，（39）の un peu，（40）の rien à foutre，（41）の pour une fois，（42）の bon Dieu の働

きはそれぞれ，提示詞の役割に接近していると考えてよい．

4．分布と統辞関係

Bien sûr que je t'aime 型構文が成立するときには，従属的な節と独立的な節の間にある区別が，いわば「解消」されていると考えられる．内心構造と外心構造の区別の解消と言い換えてもよい．

（43）　Bien sûr que c'était possible !（*Et après*..., p.27）
（44）　Bien sûr, il existait toujours un risque : [...].（*Sauve-moi,* p.182）
（45）　Heureusement qu'elles sont là.（*Je voudrais que quelqu'un m'attende quelque part,* p.39）
（46）　Heureusement, la station de métro n'était pas loin.（*Sauve-moi*, p.17）

たとえば（43）と（44）を比べれば，（43）における bien sûr と que c'était possible の間の関係が，（44）における bien sûr と il existait toujours un risque の間の関係にほぼ等しいものであることが分かる．que c'était possible は従属的で内心構造的な節である．一方，il existait toujours un risque は独立的で外心構造的な節である．（43）の bien sûr que c'était possible においては，これらの区別が無効化されていると言ってよい．同様に，（45）における heureusement と qu'elles sont là の間の関係は，（46）における heureusement と la station de métro n'était pas loin の間の関係にほぼ匹敵している．（45）での qu'elles sont là のステイタスは，（46）の la station de métro n'était pas loin のステイタスとほぼ同等と考えてよい．言うまでもなく，qu'elles sont là のステイタスが独立文のステイタスに近いから，（45）が成立するという意味ではない．しかし（45）が成立している場合に限っては，qu'elles sont là は独立文の統辞ステイタスを獲得していると解釈するのが，自然な推論である．

以下（47）から（68）に列挙するペアにおいても，同様の平行関係が成立する．Bien sûr que je t'aime 型構文における文頭の副詞要素と que 節の間の関係は，heureusement のような文副詞と独立文の間の関係にほぼ匹敵すると言ってよい．

（47）　*Peut-être* que Ripert a raison.（J. Echenoz, *Cherokee,* Minuit, 1983/2003, p.65）
（48）　Alors, *peut-être,* il comprendrait la pulsion criminelle.（*La ligne noire,* p.150）

（49）　[...], *seulement* que le témoin a raison.（A. Camus, *L'Étranger,* Collection Folio, 1942, p.139）
（50）　*Seulement,* Damas aime Lizbeth.（F. Vargas, *Pars vite et reviens tard,* Collection J'ai lu, 2001, p.214）

（51）　*Évidemment* qu'on est déçus.（*Saga,* p.81）
（52）　*Évidemment,* la maison est vide : [...].（D. Bretin et al., *Sable Noir,* Collection J'ai lu, 2006, p.187）

(53)　*Mon Dieu* qu'elle était fatiguée !（*Et après...*, p.123）
(54)　*Mon Dieu,* on a vraiment tout gâché.（*Et après...*, p.213）

(55)　*Bon Dieu* que tu es drôle !（Internet）
(56)　*Bon Dieu,* c'était ça New York !（*Et après...*, p.72）

(57)　*Surtout* que sa mère, elle me HAIT.（*Qui c'est, ce garçon?*, p.80）
(58)　Et *surtout* il manipulait la magie.（M. Chattam, *Le 5e règne,* Collection Pocket, 2003, p.272）

(59)　*Oh* que si.（*La saison barbare,* p.221）
(60)　*Oh* ! vous n'avez pas à vous justifier.（*Sauve-moi*, p.164）

(61)　Ben non, *déjà* qu'il venait pas souvent ici, il avait juste une villa à Kerpape, [...].（*Du passé faisons table rase,* p.159）
(62)　*Déjà,* le bourdonnement de l'hélicoptère s'amplifiait dans le ciel noir, [...].（M. Chattam, *L'âme du mal,* Collection Pocket, 2002, p.318）

(63)　*Où* qu'il est ?（*Je l'aimais,* p.47）
(64)　*Où* je suis ?（*Le 5e règne,* p.386）

(65)　*Pourquoi* qu'on donnerait à son chien un truc qu'on voudrait pas soi-même ?（A. Gavalda, *Ensemble, c'est tout,* Collection J'ai lu, 2004, p.310）
(66)　*Pourquoi* tu mens tout le temps ?（A. Nothomb, *Métaphysique des tubes,* Le Livre de Poche, 2000, p.114）

(67)　*Comment* qu'elle va ?（*La ligne noire,* Collection p.459）
(68)　*Comment* ça marche ?（*Elle,* 25 avril 2005, p.188）

(63)，(65)，(67) のように，Bien sûr que je t'aime 型構文の文頭の副詞要素が疑問詞であるとき，(64)，(66)，(68) のような通常の疑問文と比べて解釈に大きな違いが生じているわけではない．この場合，たとえば (63) の qu'il est の統辞ステイタスは，(64) の je suis の統辞ステイタスとほぼ同等であると考えるのが自然である．qu'il est のステイタスが je suis のそれに匹敵するから，(63) が成立するというわけではない．(63) が成立するという事実から，そこでは qu'il est のステイタスが，(64) の je suis のようなステイタスに接近していると考えざるをえないのである．

Bien sûr que je t'aime 型構文における que 節のステイタスは，独立文のステイタスに接近する．内心構造か外心構造かの区別が解消していると言い換えてもよい（**1.3.** と **2.** を参照）．このように内心構造と外心構造の区別が解消しているのは，bien sûr のような副詞要素の存在によって，que 節全体が述辞化しているからに他ならない（**3.** を参照）．述辞は従属関係がつくる階層構造の頂点にしか来ることができないのだから，明確な統辞機能を持つことができない（**1.2.** を参照）．述辞そのものが明確な統辞機能を持たない分布なのだから，述辞の位置にある連辞が単独で内心構造であるか外心構造であるかという区別は，実質的な意味を持たないことになる[5)]．

５．文副詞と独立文の意味的な接近

Bien sûr que je t'aime 型構文との比較のために，独立文が文副詞の解釈に接近する場合にも一瞥を加えておきたい．ただしこれが Bien sûr que je t'aime 型構文の場合のような統辞現象ではなく，独立文同士の並置における意味的な接近に過ぎないことには注意が必要である．

(69)　*C'est bizarre,* il ne l'imaginait pas en train de boire de la bière.（*Et après...*, p.104）

(70)　*Bizarrement,* Rutelli avait retrouvé un peu d'entrain.（*Sauve-moi,* p.156）

(71)　*C'est curieux,* il avait cru cette fichue peintre plus grande.（F. Vargas, *Les jeux de l'amour et de la mort,* Édition du Masque, 1986, p.150）

(72)　*Curieusement,* cette inquiétude la satisfait.（*La saison barbare,* p.204）

(73)　*C'est étrange,* je le considère comme l'un de mes meilleurs amis alors que je le connais à peine...（*Je l'aimais,* p.26）

(74)　*Étrangement,* ce fut leur vide qui l'alerta.（*La saison barbare,* p.127）

たとえば，(69) における c'est bizarre と il ne l'imaginait pas... の意味関係は，(70) における bizarrement と Rutelli avait retrouvé un peu d'entrain の意味関係にほぼ等しいと考えられる．(71) の c'est curieux と il avait cru cette fichue peintre plus grande の間にある意味関係は，(72) の curieusement と cette inquiétude la satisfait の間の意味関係とほぼ同等である．

意味関係に影響されて，(69) の c'est bizarre や (71) の c'est curieux の文としての独立性が，相対的に低下している可能性がある．また，bizarrement や curieusement のような文副詞との分布的な平行性も，(69) の c'est bizarre や (71) の c'est curieux の独立性の低下に何らかの影響を与えているのかもしれない．

６．まとめ

Bien sûr que je t'aime 型構文を統辞的な観点から分析した結果，主に次の三点を明らかにすることができた．I) Bien sûr que je t'aime 型構文は，構文全体が外心構造であることに統辞的な成立基盤がある（**2.** を参照）．外心構造は明確な統辞機能を持たないという消極的な性格を利用して，

相対的に高い独立性を獲得する可能性がある．II）Bien sûr que je t'aime 型構文における文頭の副詞要素は，役割が提示詞に接近している（**3.** を参照）．提示詞の役割は非動詞要素を述辞に特化することであるから，Bien sûr que je t'aime 型構文の文頭の副詞要素は，内心構造である que 節を外心構造化させていることになる．III）Bien sûr que je t'aime 型構文における que 節は，独立文の統辞ステイタスに接近する（**4.** を参照）．文頭の副詞要素と外心構造化された que 節との関係は，文副詞と独立文との関係にほぼ匹敵すると言ってよい．

［註］

1）本稿で用いた「従属」の定義については，MARTINET（1985）を参照．

2）等位の定義に関しては，敦賀（1998）を参照．

3）伝統的な外心構造・内心構造の定義については，BLOOMFIELD（1933）を参照．

4）独立文と外心構造の関連について，TSURUGA（1978）は次のように述べている．本稿の 2. の記述は基本的に，この考え方を Bien sûr que je t'aime 型構文に適用したものである．

> rien, sous les arbres du jardin est exocentrique, ou tout au moins, moins endocentrique que rien de tel, par exemple. Nous pensons que les énoncés nominaux sans les dits "actualisateurs" spécialisés sont plus indépendants quand ils sont exocentriques que quand ils sont endocentriques. C'est justement cette exocentricité même qui offre une indépendence. Le cas de rien n'est peut-être pas très explicite à cause du signifié de rien（même pour le cas de rien, nous pensons d'ailleurs que rien, sous les arbres.. est plus indépendant que rien de tel ou rien）. Mais le cas de fête, par exemple, est explicite. fête, ou une fête, ou une grande fête peut être difficilement indépendant, tandis que aujourd'hui une fête ou une grande fête parce que c'est la fin d'année paraît l'être.（TSURUGA, 1978, p.68）

5）FRANÇOIS（1975）によれば，提示詞は動詞的要素と非動詞的な要素との対立を無効化する働きを持つ．

［参考文献］

BLOOMFIELD, Leonard（1933），*Language*, New York, Holt.

FRANÇOIS, Denise（1975），"Les auxiliaires de prédication", *La linguistique* 11, pp.31-40.

MARTINET, André（1985），*Syntaxe générale*, Paris, Armand Colin.

TSURUGA, Yoichiro（1978），*L'Autonomie syntaxique en français contemporain*（*sa contribution à la communication linguistique*），thèse de doctorat de 3e cycle, Université de Provence.

敦賀陽一郎（1998）「等位接続と統辞機能」『フランス語を考える フランス語学の諸問題 II』, 東京，三修社，pp.204-215.